

「JICAボランティア事業参加者への外務大臣感謝状授与式及び懇談会」の概要

平成 23 年 1 月 11 日(火曜日)、外務省講堂において、外務省は、JICAボランティア事業参加者への感謝と励ましのため、「JICAボランティア事業参加者への外務大臣感謝状授与式及び懇談会」を開催しました。



授与式では、山花郁夫外務大臣政務官よりボランティア事業参加者に対し、国民レベルにおける国際貢献への感謝及び事業への一層の支援を述べ、代表者に対し、外務大臣感謝状を手渡しました。

これに対し、ウガンダ国においてネリカ米普及に取り組んだ酒井樹里隊員から、現地活動の困難やそれを克服するための努力、そして実を結んだ成果について報告がありました。(報告内容は末尾に添付)



授与式に続いて開催された懇談会では、参加した国会議員より励ましの言葉をいただくとともに、ボランティア一人ひとりが肌で感じた現地の状況や問題意識について、和やかな中にも活発かつ真摯な意見交換がなされました。

山花郁夫外務大臣政務官とボランティア事業参加者の懇談



佐藤公治議員からは「皆さんの今後の活動の環境整備をしていきたい。皆さんの志が日本を良い方向に導くと信じています。」と、ボランティア事業参加者に対する感謝と励ましの言葉をいただきました。



松下忠洋議員からは「皆様がたを支援する新たな議員連盟としてしっかり支えていきたい」と、ボランティア事業に対する温かい応援の言葉を頂きました。



川越孝洋議員からは「皆さんが現地の人と寝食をともにしながら活動するというのは、海外に対する日本の姿勢を伝える重要な役割だと思います」と、ボランティア事業の意義をたたえる言葉を頂きました。

阪口直人議員からは「皆さんが人生をかけて得た貴重な経験を、ぜひ次のステップに活かしていただきたいと思います」と、各隊員の今後の活動に対する期待の言葉を頂きました。





三宅雪子議員からは「帰国後、即戦力として活躍できる皆さんですので、その実現のための支援に力を入れていきたいと思っています」と、隊員に対する力強いエールの言葉を頂きました。

姫井由美子議員からは「アフリカや中米に行って、皆さんがこれからの日本の外交を支えているのだということをしっかり見て参りました」と、ボランティア事業の意義をご自身の目で確認しているとの言葉を頂きました。



ウガンダ 平成 20 年度 3 次隊 酒井樹里 村落開発普及員(ネリカ)

ただいまご紹介に預かりましたウガンダ国派遣の酒井樹里と申します。本日はお忙しい中、私たち平成 20 年度 3 次隊・青年海外協力隊並びにシニア海外ボランティアの帰国にあたり、このような式典を開催していただき、誠にありがとうございます。山花外務大臣政務官はじめ、ご来賓の皆様方に深く御礼申し上げます。

私は二年間、村落開発普及員の職種でネリカ米の普及活動に従事しておりました。ネリカ米普及については、ウガンダを始めこれまでに約 100 名のボランティアがアフリカ大陸に派遣されてきました。本日は私と同じようにウガンダでネリカ米の普及に従事していた同期隊員 3 名もご招待いただいております。

私の活動について簡単にご報告させていただきます。赴任当初は稲作があまり普及していなかった私の村で、ネリカ米をどのように普及させれば良いのか模索する日々が続きました。そんな中で開催した「ネリカ米普及ワークショップ」や、「農家個別訪問」を通じて農家の人達が稲作の基礎的な知識に乏しい事に気づきました。コメ振興プロジェクトの JICA 専門家からの助言・指導を受けつつ、除草・鳥追い・収穫後の処理の問題などをウガンダ人同僚と共に取り組み、ネリカ米の普及活動に励み、2 年間で 100 軒以上の農家がネリカ米を栽培するようになりました。コメが他の換金作物に比べ高収益を生むので栽培農家の多くが収入を増やし、生活の向上へと繋がっています。

このように述べますと順調な活動であったと思われるかも知れませんが、大きな壁がありました。村へ通じる道があまりにも悪路で、作物の出荷に支障を来し、買付け業者の車も村に入れないという死活問題です。この問題を解決すべく、村民リーダーに相談し、村道の補修工事を実施する事にしました。京都大学の木村教授が推奨する土嚢工法を用い、村人の協力を得て、4 か村で約 1000 メートルの村道を補修することができました。約 1200 名の村人がその恩恵に浴しています。村道が良くなった事で村に買付け業者の車が入れる様になり、収入が向上する結果となりました。

収穫したネリカ米を嬉しそうに見せてくれる農家の人達や、ネリカ米から得たお金で学校に戻った農家の子供達の姿、二人三脚で私と活動を共にしてくれた同僚、いつも私を気にかけてくれる村の人達・・・たくさんの素晴らしい支えがあったからこそ、稲作の門外漢であった私でも、途上国の人々のお役に立てたのだと思います。つらい事も有りましたが、2 年間の活動を無事終え満足すると共に、全ての人々に感謝したい思いでいっぱいです。

今後、私たちはそれぞれの進路につきますが、青年海外協力隊員として 2 年間活動し得られた問題解決能力、語学力などを活かし、この事業を支えてくださる国民の皆様に応えたい、日本社会、そして国際社会に対し貢献していきたいと思っております。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

【帰国ボランティア報告参考資料】



ネリカ米*の普及に貢献するため、これまでアフリカ8カ国（ウガンダ、ガボン、ケニア、エチオピア、ブルキナファソ、マダガスカル、モザンビーク）に約100名のボランティアを派遣してきました。

*NERICA (New Rice for Africa)の略語で、アジアイネの高収量性と、アフリカイネの耐乾性・耐病虫性などを併せ持つ品種。



酒井隊員の活動風景

「ネリカ米の普及」と一口に言っても、そのコミュニティによって状況、抱える課題は異なり、そのアプローチは一概ではありません。酒井隊員は「ネリカ米普及ワークショップ」や、「農家個別訪問」を通じて農家の人達が稲作の基礎的な知識に乏しい事に気づき、JICA専門家の指導助言のもと、ウガンダ人同僚と共に除草・鳥追い・収穫後処理の問題に取り組みました。



▲コメが主食ではない地域では、「コメはすべて同じ」という認識を持っている人が多いです。そうした人々にコメについて、そしてネリカについて知ってもらい、興味を持ってもらうことも一つの活動です。



▲コメは高く売れるため、換金作物として育てられている地域もあります。しかし、流通にのせることができれば、育てても現金収入を得ることができません。そこで、コミュニティのアクセスを改善するため、土嚢による道路整備を行いました。



◀コメの販売にあたっては、収穫後の処理も重要なプロセスです。他ドナーから供与された機械の正しい使い方を普及し、付加価値の向上に努めました。



村の子供たちと同僚